

国際シンポジウム

日台における宗教と思想研究

— 仏教と儒学に注目して —

日時：平成三十一年二月十日（日）午後一時～（十二時半開場）

場所：山形大学小白川キャンパス

人文社会科学部一号館二〇一教室

〈講演〉

松尾剛次（山形大学）

日本仏教の特徴とは何か

佐藤将之（台湾・国立台湾大学）

二十一世紀儒教思想研究の展望

— 『荀子』研究を起点として —

陳玉女（台湾・国立成功大学）

近現代における台湾仏教発展の転換

— 特に1945-1950年代を中心にして —

台湾はアジアにおける親日国として知られ、多くの日本人が訪問しています。とはいえ、日本人の台湾理解は表面的なものにとどまっており、とりわけ台湾の人々の根幹に関わる宗教や思想については、ほとんど理解できていないと言わざるを得ません。

一方で、日本語には仏教由来の言葉が多く見られることからわかるように、日本文化は多くの場合、仏教によって規定されています。しかしながら、その仏教についても日本人・台湾人ともに十分に理解しているとは言いがたいのが実情です。

そこで、本シンポジウムでは、日台双方における宗教・思想研究の現在について討論することによって、相互理解の深化と交流の進展を目指します。

主催：山形大学都市・地域学研究所

共催：日台政策研究所

【お申し込み方法】

参加ご希望の方は、電話（平日午前中のみ）または電子メールにて、お名前とご連絡先をお知らせください。定員（60名）に達した場合、申し込みを締め切ることにいたします。

電話 023-628-4871（平日午前中のみ）

電子メール kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp

●講師紹介●



陳玉女 Chen Yuh-Neu
台湾・彰化県王功生まれ。九州大学東洋史博士。現在台湾・国立成功大学歴史系教授、文学院院长。主な研究領域は中国明代仏教史、明代社会史。著書は『明代仏教社会の地域的研究—嘉靖・萬曆年間(1522～1620)を中心として—』（博士論文）、『明代二十四衙門宦官與北京佛教』、『明代佛門内外僧俗交渉の場域』、『明代的佛教與社會』、『海洋與觀音：明代東南沿海的觀音信仰』など。また「明倭寇の乱における寺院の遭遇及び其の社会救済—嘉萬年間東南沿海地域を考察の中心にして—」、「明末清初觀音與準提の信仰流布」、「明清閩南家族與佛教的社會救済」、「流浪者之歌：明末遺民・移民的寺廟記憶」など明代仏教關係の論考多数。



佐藤将之 Sato Masayuki
1965年川崎市生まれ。オランダ・ライデン大学漢学研究科博士。ライデン大学講師を経て、現在台湾・国立台湾大学哲学系教授。主な研究領域は、中国先秦時代の政治観念、諸子思想、荀子哲学、東アジア比較政治思想史など。『The Confucian Quest for Order: The Origin and Formation of the Political Thought of Xun Zi』（Leiden: Brill、2003）、『中國古代的「忠」論研究』（台北：臺大出版中心、2010）、『荀子禮治思想的淵源與戰國諸子之研究』（同上、2013）、『參於天地之治：荀子禮治政治思想的起源與構造』（同上、2016、上記『Confucian Quest』の中国語訳）、『荀學與荀子思想研究：評析・前景・構想』（台北：萬卷樓、2014）など、著書・論考多数。



松尾剛次 Matsuo Kenji
1954年長崎県生まれ。東京大学文学博士。山形大学人文社会科学部教授。山形大学都市・地域学研究所所長。日台政策研究所理事長。東京大学文学部国史学科卒業、同大学院人文科学研究科博士課程中退。専門は日本宗教史、中世都市論、戦国大名論など。また山形県大石田町の町づくりアドバイザーを務める。著書は『新版 鎌倉新仏教の成立』（吉川弘文館1998）、『仏教入門』（岩波書店1999）、『破戒と男色の仏教史』（平凡社2008）、『葬式仏教の誕生』（平凡社、2011）ほか多数。

アクセス

山形大学小白川キャンパス

〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12

・JR 山形駅から

東方へ約 2km（徒歩約 25分）

ベニちゃんバス「東くるりん 東原町先回りコース」で「山大前」下車（所要時間約 9分）

市内路線バス「県庁前・県庁北口」行きで「南高前・山大入口」下車（所要時間約 6分）、そこから徒歩約 7分

・JR 仙台駅から

高速バス「山形行き」で「南高前・山大入口」下車（所要時間約 55分）、そこから徒歩約 7分



※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。